

芭蕉十二白

野 古 方 仁

馬 鹿 子 子 御 子

河 上 子 子 子



五月より物と

佳未あて早し

思ひ上川



お目々佳也

雪もさかたから

常閑



五口から水ぬ

湯の間にぬらす

不器かな



日暮は遠くを

海にのりこ

風は吹く



這も出てよ

目くらましが下の
食

空の超因



兼海也

佐治の横たえ

天の河



一家に遊女も

寝あたり

茶林と月



白山の

白より白し

秋の風



今より

書何清さん

竹立の書路



物書

一箱

余市波かな



のねしとや

酒麩をたかきかち
用

たる
海目の結



さき首の團扇の糸甲の直さ

十二のりさき選を折帖

の録しと
念の念とす

宇成唐長自然氣